

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3272100284		
法人名	有限会社 はるひ福祉サービス		
事業所名	はるひ苑 津和野		
所在地	島根県鹿足郡津和野町寺田67番2 (電話) 0856-72-1588		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成20年5月9日	評価確定日	平成20年5月28日

【情報提供票より】(20年4月25日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤	7人, 非常勤 3人, 常勤換算7, 8人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000円	その他の経費(月額)	9,000円
敷金	有( )円 ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300円		

## (4) 利用者の概要(4月25日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84, 7歳	最低	74歳	最高	98歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	津和野共存病院・和崎医院・オクダ歯科・この眼科
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域密着型としての理念のもと、利用者への心配りと家族との関係を大切にしているホームである。介護度の高い利用者が多いが、声かけや個別の支援を行うことで状態が改善した利用者もあり元気にホームでの生活を楽しんでいる。毎月、介護計画を細やかに見直し家族に伝えている。月一回発行される「はるひだより」はプライバシー確保を徹底させながら利用者の暮らし振りを生き生きと伝え、家族や関係者から心待ちにされている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「運営推進会議への様々な分野の人の出席」「災害対策で他の機関との連携」については改善されていたが、「年間計画に位置付けた外部研修」や「自己評価に基づく計画的な改善」は継続して課題になっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が日々のケアを振り返りながら自己評価票に記入し、管理者が意見をまとめて評価を行ったが、職員全員で改善課題に取り組むまでには至っていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一回開催し、外部評価の報告や利用者の状態などについて活発に意見交換している。討議内容は運営に活かされていて、安全確保のための「飛出し注意」の看板設置や、地域の人の避難訓練への参加など実現している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、介護計画書などと共に返信用封筒を同封し家族の意見を引き出し、意見をケアや運営に活かしている。行事をとおして家族同士が交流したり、家族会会長に相談できる仕組みがあり意見が言いやすい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し花見やゴミ拾いなどの行事に参加したり、地域行事にも積極的に出掛け交流を図っている。近所の人から野菜の差し入れがあったり、児童館の園児が訪問するなど、地域との連携が広がってきている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が、なじみの環境やなじみの人との関係の中で尊厳をもって生きていくという、地域密着型としての明確な理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	モニタリングやケア会議、ミーティングの中でケアを振り返っている。管理者・職員は理念を唱和し共有に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	花見やゴミ拾いなどの自治会行事や、運動会、文化祭などの地区の行事にも積極的に参加し交流を図っている。近所の人からの野菜の差し入れや児童館の園児の訪問などもある。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自己評価票を記入し、管理者が意見をまとめて自己評価を行った。	○	さらに、自己評価や外部評価をもとに各項目について職員全員で話し合いを行い、改善課題を共有する取り組みが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価や利用者の状態などを報告している。出席者からのサービス改善のための意見は運営に活かされ、避難訓練への地域の人の参加や「飛び出し注意」の看板の設置などが実現した。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	「たより」を持参したり電話で相談をするなど、日常的に連携に努めている。町が行っている「地域支援体制構築事業」の一員として共にサービス向上に努めている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、管理者からの挨拶文やお知らせ、介護計画書とモニタリング、苑だより、写真、受診結果などを送付し、暮らしぶりを詳細に生き生きと伝え心待ちにされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会会長名で年賀状や暑中見舞いを出したり、お花見で家族同士が交流するなど、意見が言いやすい関係作りをしている。毎月、家族の意見を聞き、意見を運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず職員の異動があった場合には、利用者や家族にきちんと伝え信頼関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に社内研修に取り組み研修の機会を確保している。地域の研修など外部研修にもできるだけ参加するように努めているが勤務の関係で参加が困難なこともある。	○	限られた職員体制の中でより積極的に研修に参加するために、職員の希望を聞いたり話し合いを行い、さらに工夫されることを望みたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、益田圏域のグループホーム連絡会に参加し交流を図っている。職員の参加も計画されている。同じ会社の運営するグループホームと交換研修を行い、職員同士が互いに学びあっている。	○	社内以外の地域の同業者との交流も検討し、さらなるサービスの質の向上を期待したい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には利用者や家族にホームを見学してもらい利用開始している。入居後も家族に面会に来てもらったり情報交換を行いながら支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活する中で利用者の思いを理解し、共感しあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉を大切にし思いの把握に努めている。入浴時に話される利用者もいる。定期的に基本情報やアセスメントを見直し、思いを確認している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が中心になって案を立て全員で話し合っ て計画を立てている。毎月家族への報告時に家族の思いを聞く工夫がされていて、家族の意向が大切にされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、見直しを行い家族に報告している。体調変化のある場合はその都度主治医に相談し家族と話して見直しをしている。計画に沿った見直しで記録もわかりやすい。	○	毎月、見直しや記録がきちんとされていて職員の努力がうかがえる。記録のための時間の確保などを検討されながら、この取り組みが継続されることを期待したい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診支援や外泊、外出など、利用者や家族の希望に沿うように柔軟な対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に添ったかかりつけ医による支援が行われていて相談しやすい。毎月2回訪問診療が行われ、必要時には職員が付き添って受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化しても関係者と話し合いをしながらホームとしてできる支援をしたいと考えている。現状では経口摂取できなくなると対応が難しい。	○	家族との話し合いも行われているが、さらに、ホームの機能を最大限に活かすための検討を継続して行っていただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	きちんと名前と呼んだり、同じ目線で話すなど、利用者の尊厳を守る対応を心がけている。権利擁護や虐待の勉強会を実施するなど、プライバシー確保の徹底に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事、生活の仕方など、利用者のペースや状態に合わせた支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	介護度の高い利用者が多いが、エンドウの皮むき、魚のさばきなど、利用者の力を引き出す場面づくりをしている。おやつの中には全職員が一緒に和やかにテーブルを囲んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームの考えで利用者に負担がかからない時間帯で支援している。希望や状態によっては毎日入浴する人もいるが、基本的には曜日を決めて支援している。	○	毎日利用者に声をかけ、希望を確認しながら支援することが望ましい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や花の水やり、洗濯物たたみ、テーブル拭きなど、利用者の力が活かせる場面づくりをしている。歌やピアノを楽しんだり、外食やショッピングも実施されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩、畑の草取りなど、戸外に出かける機会を作っている。季節ごとにドライブや外出行事があり、弁当持参で出掛けることもある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを心がけている。外出する人には職員が同行し安全確保に努めている。近所の人の見守りの協力もある。行方不明者の緊急通報を公民館にお願いできるようになった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治会長や近所の方に参加してもらい避難訓練を行った。避難場所や緊急通報は公民館にお願いしている。	○	特に夜間の対応について繰り返し訓練を行っていただきたい。備蓄の検討もお願いしたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を把握している。食事の食べにくい利用者が多いが主治医と相談しながら支援している。専門家による食事のチェックが計画されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ティッシュなどの生活感のある物品や季節の花、写真などが飾られゆったりとした優しい空間作りがされている。テレビはあまりつけず雰囲気に合わせて音楽を流している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や手芸品、馴染みの机や椅子などが持ち込まれ、利用者に合わせて思い思いの居室づくりが行われている。	○	利用者の状態によっては馴染みの物品を持ち込めない居室もあるが、思いを探りながらさらにその人らしい居心地のいい雰囲気づくりの検討が望まれる。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。